

### 奈良西 R C 林秀彦会長の挨拶

皆さん、こんにちは、お久しぶりでございます。私は奈良西 R C 会長林秀彦です。

本日徐会長様のお招きで、奈良西 R C の会員・家族 23 名で参りました。昨年、別府での 4 回目の姉妹クラブ延長調印式には、多くの麻浦 R C の皆様にお越しいただき、日本と韓国の、また奈良西 R C と麻浦 R C との友好の絆を強めることが出来ましたことは、最大の喜びでありました。

本日は百済の古都で、奈良と深い繋がりのあるこの扶余をはじめ、日頃私たちがなかなか行けないところをご案内いただき、大変嬉しく思います。扶余（ぶよ）は、1400 年前、奈良の飛鳥に仏教を伝えていただいた古都で、古代社会の形成に大きな影響を及ぼしました。日本書紀によると、百済王が造寺工と造仏工を日本に送ってこられ、彼らが飛鳥寺を建てたと記しています。ロータリアンは、お互いに、心と心の交流・奉仕を常に心掛けています。心がなければ、奉仕の事業は成り立たない。心がなければ、何事も成功することは出来ません。そして、何より、心がなければ、世の為人の為になることが出来ないと思います。

いくら世の中が発展し、携帯電話やテレビ電話で話すことが出来ても、今回このようにお互いに笑顔を合わせ、語り合う時間ほど濃密で意義深い交流は不可能だと思います。今までにしてきたこと、またこれからしようとする事等を語り合い、その中から両クラブで連携して出来る奉仕を見つけ出せればと思います。

最後に、麻浦 R C の皆様のご健勝と今後のますますのご発展、そして両クラブの友好が更に深まりますよう祈念して、御礼の言葉と致します。